

Kwacha (クワチャ) はチェワ語で「夜明け」を意味します。

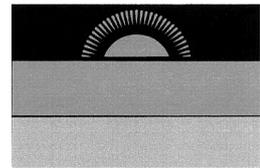
編集・発行：日本マラウイ協会
〒106-0047 東京都港区南麻布 5-10-24 第2佐野ビル702
Tel. 03-3447-2181 Fax. 03-3447-2933
Home Page <http://www.joca.or.jp/malaw/malawi-j.htm>
E-mail hi-ueda@mxn.meshnet.or.jp

【マラウイ共和国】

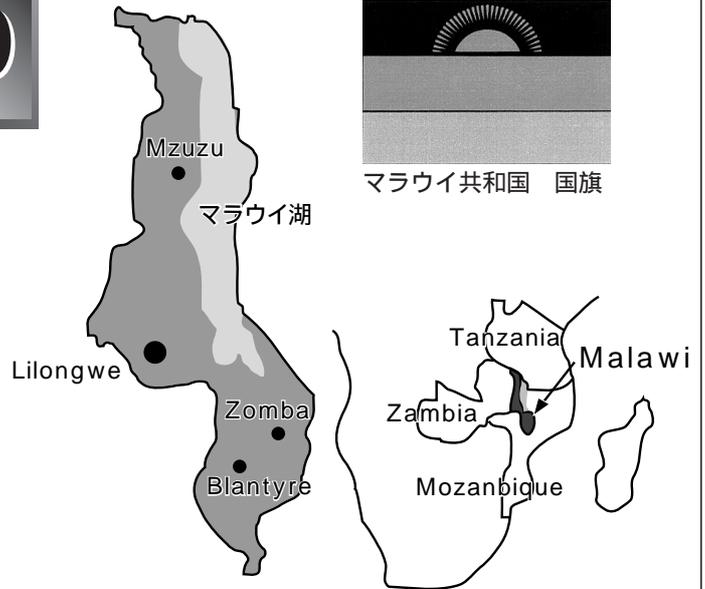
面積：118,484 平方 km (日本の約 1/3)、人口：946 万人、首都：リロングウェ
独立：1964 年 7 月 6 日、公用語：英語・チェワ語
政体：共和制、大統領：バキリ・ムルジ
為替レート：US\$1 = MK 21.3002 (2 月 1 日現在)
MK 1 = 5.9633 円 (2 月 1 日現在)

【日本マラウイ協会 (Malawi Society of Japan)】

日本とマラウイ両国間の理解を深め、文化、スポーツ、経済、科学技術等の協力を通じ、相互の繁栄に寄与することを目的とする任意団体です。趣旨をご理解の上、広く各位の入会を希望します。
会員数：約 230 人



マラウイ共和国 国旗



バンダ前大統領 死去

マラウイの前大統領、ヘイスティング・カムズ・バンダ氏は、97 年 11 月 25 日、入院先の南アフリカ・ヨハネスブルグの病院で死去した。



【死去したバンダ前大統領】

バンダ氏は 11 月 15 日夜、ブランタイアのアドベンティスト病院に肺炎のため入院し、11 月 17 日 16:30 (日本時間 23:30、以下同じ) ブランタイアのチレカ空港からマラウイ政府がチャーターした飛行機で、昏睡状態のまま、南アフリカ・ヨハネスブルグに搬送された。

ヨハネスブルグでは、私立病院ガーデンシティクリニックに入院して治療を受けていたところ、11 月 18 日には病状も安定し、20 日には集中治療室から一般病棟個室に移されたが、11 月 25 日 21:45 (26 日 04:45) 呼吸不全のため死去した。

バンダ氏の年齢は、マラウイ政府発表では 1906 年 5 月 14 日生まれで 91 歳とされたが、実際は 1890 年代後半の生まれと広く信じられており、病院の死亡診断書には 99 歳と書かれた。

バンダ氏は英国から独立した 64 年に首相、共和国となった 66 年から大統領となり、マラウイ議会党の一党支配下で「終身大統領」を宣言、30 年にわたり独裁政治を行った。ブラックアフリカの中で唯一、アパルトヘイト時代の南アフリカと国交を結んだ。また、日本との深

い関係を作り上げ、80 年代には年間 100 人を超える青年海外協力隊員を受け入れるに至った。94 年、援助国の圧力で複数政党制による大統領選挙を実施、ムルジ現大統領に敗れた。96 年 1 月、「国民に苦痛を与えた。心から謝罪する」という異例の声明を発表した。97 年 7 月には後進に道を譲るとして政界からも引退していた。

バンダ氏の遺体は、11 月 29 日にヨハネスブルグからマラウイに戻り、ブランタイアとリロングウェで一般国民の弔問を受けた後、12 月 3 日にリロングウェで国葬が行われ、キャピタルヒルの一角に埋葬された。国葬で、ムルジ大統領は「私は選挙で戦ったが、カムズ・バンダ氏は自ら民主化を受け入れた真の政治家であった。」と述べた。

マラウイ副大統領が来日

マラウイのマレウエジ (Justin C. Malewezi) 副大統領兼大蔵大臣は、97 年 9 月 26 日まで IMF の国際会合出席のため香港に滞在した後、9 月 30 日に JETRO ビジネスサポートセンター (東京都港区) で開催された「マラウイの観光資源と投資環境紹介セミナー」での講演のため 9 月 27 日に来日し、29 日には皇居にて天皇陛下に会うなど多忙な日程をこなし、10 月 1 日、日本を発ち帰国の途についた。

同副大統領は、日本滞在中の 9 月 28 日午後、同国駐日大使館 (東京都港区) にて、日本マラウイ協会の秋山忠正会長と同協会所属の青年海外協力隊マラウイ OB 4 名と懇談した。これは、この機会をとらえ同大使館が、日頃、日本・マラウイ両国間の相互理解および親善等に支援協力している日本マラウイ協会関係者を招いたものである。



【左から 3 人目、マレウエジ副大統領】

冒頭、秋山会長は、マラウイはこれまでにアフリカの中で最も多くの協力隊員を受け入れている国であることに触れ、協力隊員の活動に対する同国政府の様々な配慮に感謝の意を伝えた。また、マラウイの人達の国民性や、美しい自然に魅せられた OB/OG 達が日本マラウイ協会を組織し、帰国後も同国発展の一助となるべく活動を展開していることを紹介した。

これに対し副大統領は、日本の協力隊員の様々な分野での活動を高く評価すると共に、帰国後の OB/OG 達に対して、「是非、再び任地を訪問してマラウイの発展ぶりを見てほしい。そして、元同僚達との旧交を温めてほしい」とのメッセージを贈った。また、副大統領自身も、アメリカ平和部隊創生期に隊員への現地語訓練に携わった経験があり、ボランティア活動に関心があることを披露し、「マラウイ自身も同様の組織を持つ時が来ることを望んでいる」と述べた。

懇談は 30 分あまりにおよび、最後に日本マラウイ協会が発行した国情紹介誌「Malawi - The Warm Heart of Africa 第 2 版」とマラウイ旅行ガイドブック「暖かきアフリカの心 - 湖とサバンナの大地へ」を贈呈し、全員で記念撮影を行った。

マラウイ観光・投資セミナー開催

9 月 9 月 30 日に、JETRO (日本貿易振興会) ビジネスサポートセンター (東京都港区) で、「マラウイ観光資源と投資環境紹介セミナー」が、マラウイ大使館および JETRO の主催により開催された。マレウエジ副大統領兼大蔵大臣をはじめとするマラウイ政府関係者、駐日マラウイ大使館関係者、日本国外務省関係者、駐日各国大使館関係者、日系企業関係者など合計 約 95 名の参加があり、好評を博した。日本マラウイ協会からは、秋山会長、貝塚専務理事、河野理事が出席した。セミナーでの講演概要は以下のとおり。

(1) 「マラウイ：政治的安定と経済成長に対する政策」
～マレウエジ副大統領兼大蔵大臣～

民主化までのいきさつ、民主化後の政策 (民主的な憲法への改正、汚職防止法の制定など公正な行政の確立、貧困撲滅プログラムの実施、公的機

関の民営化プログラムの実施)、インフラ(道路、電力、電気通信等)整備への取り組み、海外からの投資への優遇政策などについての紹介があった。最後に日本の多くの人々が来まし、マラウイの素晴らしさを体感してほしい旨の言葉で締めくくられた。

(2)「日本とマラウイの協力関係」
～太田外務省中近東アフリカ局アフリカ第2課長(前駐ザンビア日本大使館次席)～

マラウイにおける青年海外協力隊(JOCV)の活動ならびに同OB/OGを中心に行われている日本マラウイ協会の活動の紹介があった。特に、JOCVについては、マラウイには日本の若者が力を発揮できる職場環境があり、温和なマラウイ国民の人柄のおかげで、26年間にも亘って、フィリピン、マレーシアに次ぐ規模の約1000名に及ぶ隊員が派遣され、両国の架け橋的な役割を担っている旨が述べられた。(日本マラウイ協会を代表して秋山会長からは、セミナーの最後で、今後、マラウイにおけるNGOと連携した援助活動が望まれると考えるが、日本マラウイ協会としても、そういった援助活動等を進めていきたいと述べられた。)

また、マラウイへ行ったことがある邦人はまだまだ少ないのが実状であるが、一度でも訪れたことのある人はマラウイが好きになるといふことにつき、娘にマラウイ湖畔の地名を名付けた夫婦の例などを紹介された。

(3)「マラウイの観光と投資」
～カフェラパンジラ マラウイ投資促進庁 上級投資サービス官(UNIDO ソウル事務所職員兼務)～

マラウイ政府の海外企業への優遇措置、マラウイにおける物流や労働力等が低コストであること、住宅、保養施設や観光地などのリゾートもあること等の海外企業進出のメリットや、トヨタ、フォード、コカコーラなどの進出状況等が紹介された。

(4)「日系企業の経験紹介」
～西澤(株)東京支店 仁尾 東京営業部長～

タンザニア・ダレスサラムに拠点を置き、40年間に亘ってアフリカにおける事業を展開している西澤(株)の状況が紹介された。同社のマラウイにおける事業は開始されて、すでに30年であるとのこと。マラウイでの事業は、法的な諸手続きが日本などで物事を進めるのに比べて、より円滑に処理することができ、また国民の人柄の良さのため、同社の各担当者はマラウイでの仕事を好み、単に事業だけでなく家族を伴ってマラウイ湖畔等へ、度々、休暇に出掛けるなど、マラウイに魅了されていることが述べられた。

'97 国際協力フェスティバル参加

9 7年10月4～5日にかけて東京・日比谷公園で「'97 国際協力フェスティバル」が開かれた。これは外務省の協力で国際協力フェスティバル実行委員会が主催、国際協力事業団、海外経済協力基金などの共催で毎年開催されているもので、今回で7回目。日本マラウイ協会は、94年の初参加から4回連続の参加となった。

当日は割り当てられたテントに、マラウイ国内

の写真パネルを展示し、マラウイを紹介した資料を配布すると共に、当協会編集の国情紹介誌「マラウイ The Warm Heart of Africa 第2版」や旅行ガイドブック「暖かきアフリカの心・湖とサバンナの大地へ」をはじめ、OB/OGが持ち帰った民芸品などの販売を行なった。また、駐日マラウイ大使館提供のマラウイ産紅茶・チョンベティーの販売と試飲を行ない、試飲では延べ500カップ以上を無料で飲んでもらい、マラウイのPRに務めた。



【右から4人目、ヴァレッタ大使】

ヴァレッタ駐日マラウイ大使、バンダ参事官が当協会の出展テントを視察されると共に、川上、西郷両大使館職員がテント内でマラウイの紹介案内を務めるなど、駐日大使館の全面的な協力を得て、大きなPR効果を得ることができた。

里美村 国際交流フェスティバル参加

日本マラウイ協会は、97年9月21日に茨城県里美村役場前で行われた国際交流フェスティバルに参加した。

これは、茨城県北部地方広域圏交流事業実行委員会が主催する『ひたち音楽祭「新能」』と合わせて、ふだん触れ合う機会の少ない世界の国々の人達との交流や、姉妹町村であるフィリピン国ラトリニダット町との交流促進を図ると共に、村民の異文化体験および国際理解を目的として開催された。

(社)青年海外協力協会(JOCA)が里美村と協力隊関係OB/OG会等の間を取り持ち、日本マラウイ協会をはじめ、バングラデシュOV会、ソロモンOV会、ワスワヒリの会、茨城県OB会などが参加した。



日本マラウイ協会主催の「マラウイ料理(主食のシマとおかず)」を販売したが、用意した50食余りはあっという間に売り切れ、食後に用意したマラウイ産紅茶チョンベティーも多くのお代わりの申し出を受けた。また、OBが持ち帰った民芸品も好評を博した。日本マラウイ協会では、これからも機会があれば、このような地方でのイベント等を通じて、マラウイの広報支援活動に努めていくことを計画している。

平成9年度1・2次隊 マラウイへ

青年海外協力隊の平成9年度1次隊マラウイ派遣隊員一行が97年7月に、また同2次隊一行が12月に成田空港から出発した。既に現地訓練を終え、各配属先での活動が始まっている。今後の活躍が期待される。



【1次隊出発前、TCATのVIPルームで】

マラウイ短信

に関する季刊雑誌「i'Afrika」の出版社、South Africa Contact社が発行する隔週電子メールによるマラウイ関連ニュース「Malawi News Online」から、ニュースを抜粋し要約を紹介しています。各項目の冒頭の日付は同ニュースの配信日を示しています。

日本マラウイ協会は同社と配信契約を結び、記事の要約・掲載について許諾を得ています。記事の著作権は同社に帰属します。読者の方がニフティサーブなどの商用パソコン通信やインターネットの電子メールアドレスをお持ちであれば、同社と直接契約出来ます。隔週に10本前後のマラウイのニュースが電子メールで配信されます。個人で契約する場合は年間わずか22米ドルです。お申し込み・お問い合わせは電子メールで次のところへお願いします。

Malawi News Online
c/o South Africa Contact
E-mail: AfricaNN@inform-bbs.dk

生物ガス導入プロジェクト
【97年6月23日号】

マラウイ産業調査技術開発センター(MIRTDC)は、マラウイにおける樹木の存在率が急速に下降している問題を指摘し、人間の排泄物から生物ガスを生み出して代替エネルギー源として利用するプロジェクトを進めていることを明らかにした。生物ガスプロジェクトのウィリー・ムイラ チームリーダーは、「本来なら捨てられてしまう牛糞、砂糖きび、バナナ、食用飼鳥類、およびトウモロコシ糞を利用した生物ガス製造の実例がすでにある。マラウイ湖の北部のリコマ島では、樹木の消費を減らす必要性が高く、また、多くの生物ガスを獲得できる環境がある」と、MIRTDCが山林伐採の

著しいリコマ島をプロジェクトのモニター地区に選んだことを説明した。

MIRTDIC によると、1995 年の統計では、マラウイの人口(推定 1,100 万人以上)の 90% が、燃料として森林の樹木を利用しており、それはマラウイで消費されるエネルギーの 93% に及ぶが、年間 1,100 万立方 m 以上をガス燃料利用に変えれば、約 4,400 トンの樹木が伐採されずにすむという。

アメリカ政府 エイズ対策関係援助

【97 年 6 月 23 日号】

アメリカのピーター チェヴェアス 駐マラウイ大使は、1997 年のマラウイにおける HIV/ エイズ対策活動のために、アメリカ政府が MK1 億 2,900 万 (US \$ 860 万) の資金を援助することを明らかにした。

同大使は、「ナショナルエイズコントロールプログラム」の推定では、現在、マラウイを含む南部アフリカ各国で、約 100 万人が HIV ウイルス保菌者で、約 20 万人がエイズで死亡する可能性がある。しかし、マラウイにおける HIV/ エイズ対策活動により、例えば、生殖年齢女性の避妊薬使用が 1992 年の 4% から昨年は 14% に上がり、更に 1998 年には 20% となる見込みであるなど、最近、成果が見られている」と述べ、対策活動の有効性を示唆した。

郵便電気通信公社 事業の独占主張

【97 年 6 月 23 日号】

マラウイ郵便電気通信公社 (MPTC) は、電気通信分野への競争導入は、地方部における電気通信サービスの提供・改善を妨げるとして、同公社による電気通信事業の独占が必要であると発表した。

発表によると、「民間電気通信会社はブランタイアのような商業エリアにおける事業のみに着手するであろうが、MPTC はあまり利益の見込めない地方部(全土の 80% 以上の人々が住んでいる)における電気通信サービスを提供しなければならない。しかし、民間会社は都市部で多くのシェアを獲得することが予想され、MPTC が都市部で得た利益によって地方部に新たに通信設備を導入し、全土で通信アクセスが可能となるようにすることが否定される」という。

政府 インターネットサービスを独占

【97 年 7 月 10 日号】

マラウイ政府は民間のインターネット・サービスプロバイダ (ISP) からの設立許可申請を却下し、代わって自身のマラウイ郵便電気通信公社 (MPTC) に許可を与えた。マラウイ政府は、インターネット価格を適切に保つことを意図するものであると述べたが、民間 ISP は政府が自らの利益にかなうように情報独占体制を作り上げていると懸念している。

すでに、MPTC はインターネット以外のマラウイにおける全ての電気通信サービスを支配しているが、これにより、政府に代わってインターネットサービス事業についても許可権限を持つことになる。

ドイツ政府 援助金を 33% 削減

【97 年 7 月 28 日号】

7 月 14 日、ドイツ政府はマラウイへの援助を 33% 削減することを発表した。経済協力省の担

当長官であるエリン ホーン ヴォルムスタグ博士は、「この削減はドイツ政府の対外援助予算全体が縮小されたことに伴うもので、マラウイだけでなくドイツが支援する全ての発展途上国へ影響を与えることとなる。ドイツ政府は 97/98 会計年度に金融支援として MK284 百万 (DM3,300 万) さらに MK 3 億 4,400 万 (DM 4 千万) を、昨年同様、技術援助としてマラウイに供与する」と述べた。また、ドイツ政府代表団の高官は、支援の削減はドイツ国内における失業の増大により一部の国民が税金を支払えないという問題に起因していることを明らかにした。

マラウイのアレク バンダ経済計画開発大臣は、この支援削減を受け、財政援助機関へ対外債務返済を要請した。

二大公立病院で料金値上げ

【97 年 9 月 19 日号】

マラウイ保健省は、プランタイア・クィーン エリザベス中央病院、リロングウェ中央病院の 2 つの公立病院において、有料病棟料金を最近 4 倍に値上げした。患者が、これら 2 病院の病棟に入院するのに必要であった前金は、これまで MK150 (US\$ 9) であったが MK600 (US\$ 35) となり、同様に病棟料金はこれまでの 3 ~ 4 倍値上げされ、1 日に付き MK150 ~ 300 (US\$ 9 ~ 17.5) となった。

保健省の書記官であるウェスリー サンガラ博士は、病院での盗難被害を防ぐためのフェンス建設、内装などの病院施設補修、救急車購入等の資金に充てるために値上げが実施されたと述べた。

手工芸品 ヨーロッパで需要促進へ

【97 年 12 月 8 日号】

ドイツ政府は、技術協力機関 (GTZ) を通じ、マラウイ商工業業会議所 (MCCI) に対して、マラウイ製手工芸品のヨーロッパへの輸出を促進させるプロジェクトに着手した。

最近、GTZ から派遣されたガーナ人のプロトラデ ジェリー ベジュ アッド国際貿易コンサルタントは、まず、マラウイで手工芸品作家や関係貿易業者から情報を収集し、ヨーロッパのマーケットに興味を示すであろう手工芸品作製に向けた取り組みを始めた。同氏は「ヨーロッパの人々が手工芸品をあまり手作りしなくなって以来、ヨーロッパでの手工芸品への需要が次第に高まっており、アフリカ各国は手工芸品市場における独自性を維持するであろう。また、手工芸品輸出を促進することによって、マラウイ地方部で手工芸品を製作する仕事が生み出されるだろう」と述べた。

公務員 17,000 人以上削減

【98 年 1 月 11 日号】

マラウイ政府は、98 年 3 ~ 6 月の間に、17,000 人以上の公務員を削減する見込みである。

マラウイ労働省は、世界銀行の支援により、97 年に民間コンサルタント会社を使って労働人員のリストラについて調査した結果、業務分野別に本来必要とされる要員は現行 30,000 人いる職員の 25% に過ぎず、残り 75% が余剰人員であり、98 年 6 月末までに 17,000 名の人員削減が必要であると発表した。マラウイ大統領府のキャンペン コマ副書記官は、調査の終了により、人員整理が始まることになると述べた。

投稿 3 年半ぶりのマラウイ

H3-1 無線通信機 渡辺和弘

3 年半ぶりにマラウイを訪れることができ、久しぶりのアフリカを感じ、その後どのように変化したのかをこの目で見る事が出来た。

街の様子は極端には変化していないが、全体的に物が増えてきている。車・食料品・日用雑貨・衣類等輸入品を含め数・種類共に相当豊富になり、消費者にとって選択の幅がかなり広がっている。一方クワチャ安 (1 ドル約 MK19.00 / 12 月中旬) による物価上昇は続いておりマラウイの人々の生活を圧迫している様である。現在紙幣はカムズバンダ、パキリムルジ、ジョンチレンプエの三人の顔が存在し種類が多過ぎてよく混乱した。



【サリマのバス停留所にて】

移動中、道路のあちこちでかい穴ボコがあるのが目に付いた。街中では修復作業が行われているが悪化のスピードに追いついていないのが現状のようである。特に Blantyre ~ Mulanje 間の道路 (Thyolo 経由) はひどくバスの中でゆっくり寝たものではない。しかしモザンビークのボーダーに至るまで新しい道路が工事中であり、近い将来より良い状態に変わるだろう。一方 Lilongwe ~ Salima 間の幹線道路は工事が完成し見事なハイウェイと化していた。相変わらずヤギは横断しているが...

道路の劣化に拍車をかけるようにミニバスが激増しており主要な街をつなぐ幹線で常時激しいバトルが繰り広げられ、勢い余ってよくひっくり返るらしい。車は日本の中古車がかかり入っているらしく、クリーニング・xx 工務店・自家用、など日本語を良く見かける。車の増加はいたる所で渋滞を引き起こし、Limbe 経由のバスは Limbe の街を抜け出すまでに 30 分もかかってしまうほどである。

Coach Line は一日 4 便になった。Blantyre に向けて乗り込んだが 30 分ほど走り、エンジンから煙をはき始め止まった。マラウイで最高級を誇る Coach Line も最近ではよく止まるらしい。

治安の悪化は深刻化してきているらしいが、滞在中身の危険を感じることは無かった。ただ Limbe でインド人商人がマラウイ人強盗に射殺される事件が発生し、インド人を震え上がらせてはいたが...

今回はたった 2 週間の滞在であったが、マラウイのやさしく、陽気な人々に再会できたことがとても嬉しかった。

今後もマラウイの人々がより良い生活を営める環境となるような発展を遂げていてもらいたいものである。

マラウイ関連 TV 番組

(1) 97 年 8 月 24 日 18:30-19:00
テレビ朝日系 「素敵な宇宙船地球号」

「神秘的湖と魚達」と題して、南アフリカの学者がマラウイ湖に生息する固有種の魚を絶滅の危機から救おうと取り組んでいる様子が紹介された。個々の魚の種類ごとに戸籍簿を作り、地道な調査、研究を重ねると共に、沿岸村民に保護を働きかける活動が行われているという。

(2) 97 年 9 月 14 日 08:30-09:00
TV 東京系 「大使の国のたからもの」

外務省の協力により放送されているシリーズで、マラウイが登場。早見優のナレーターで、ヴァレタ駐日マラウイ大使の説明を交えながら、マラウイの観光地や主要都市などが、最新ビデオ映像により紹介された。

(3) 97 年 10 月 5 日 22:00-23:00
NHK 衛星第 1TV 「日曜スペシャル」

「アフリカで生と死をみつめて、エイズを記録する日本人女性写真家 - アフリカの現実揺れながら - 」と題した番組、総合テレビでも再放送された。

国際 NGO 「国境なき医師団」(MSF) の日本事務局が、若い有望なカメラマンに贈る、第 1 回 MSF フォトジャーナリスト賞を受賞した大川砂由里さん(29)は、受賞後の 97 年 7 ~ 8 月マラウイに滞在し、エイズが蔓延する現地で 7 人の各国医師によりエイズ対策プロジェクト(エイズ治療支援やエイズ予防活動等)を展開中の MSF の活動地(マラウイ南部・チラズル群立病院 他)等で写真撮影に取り組んだ。番組では、彼女が現地の人達と病院での撮影をめぐるトラブルに直面しながら、必死に生き抜く同年代の女性エイズ入院患者やその家族の様子などを撮影することにより、プロのフォトジャーナリストへのステップを掴みとっていき姿が紹介された。(次項参照)

大川砂由里さん写真展

大川砂由里さんの写真展が、97 年 11 月 18 日 ~ 12 月 5 日に、東京・東池袋の高層ビル「サンシャイン 60」60 階展望台の「スカイギャラリー」で開かれ、マラウイで撮影した写真のうち、約 40 点が展示された。大川さんによると、チラズル群立病院では患者とうまくコミュニケーションが取れず、家族から写真を撮ることを禁止され、「悲惨な状況だけじゃなく、家族で支え合って生きているところを写したい」と必死で訴えたこともあったという。



【写真展会場の大川砂由里さん】

マラウイの物価

97 年 12 月 9 日付け The Nation 紙に掲載された McConnell & Co.(マラウイの雑貨・食品卸売店)の広告によると、同社のクリスマスセール価格は次の通り。(MK 1.00 = 約 6 円)
マラウイ ジン 750ml 1 本 MK 86.15
ホワイトホースウィスキー 750ml 1 本 MK 213.00
ニドミルクパウダー 500g 12 缶 MK 728.40
クッキングオイル 500ml 10 本 MK 177.50

石鹸 30 個 MK 97.50
トイレットペーパー 50 巻 MK 165.00

マラウイ国内新聞、WWW に登場

マラウイ国内で発行されている新聞、The Nation のインターネット WWW 版が登場した。【アドレス】<http://www.malawi.net/thenation>
これは昨年、マラウイに本格的なインターネットサービスプロバイダー、マラウイネットが営業を開始したため可能になったものである。


日本マラウイ協会情報


マラウイへ親善訪問団

日本マラウイ協会は、元青年海外協力隊マラウイ隊員を中心とした 10 数名のメンバーによる訪問団を結成し、98 年 4 月 25 日出発、5 月 3 日帰国の日程で、マラウイを親善訪問する予定です。訪問メンバーの中には、71 年に初代隊員として派遣され、今回 25 年ぶりに現地を訪れる者もおります。変わり行くマラウイの状況を視察する他、それぞれに、かつての任地を訪れ元同僚達と再会し、旧交を温めることなどが予定されています。次号本紙にて、訪問レポートを紹介いたします。

ホームページアドレス変更

日本マラウイ協会のインターネット ホームページ アドレス(URL)が、下記のように変更されました。これはサーバスペースを借り受けている(社)青年海外協力協会(JOCA)の都合によるものです。

現在、当協会のページは協会紹介、同英語版、国概要、刊行物、衣食、家庭料理、チェワ語、インターネット、アフリカ料理店、お知らせの 10 項目を収録しています。今後、情報を追加していくとともに、お知らせのページではイベントの予告や、報告なども随時行っていきます。

【新アドレス】<http://www.joca.or.jp/malaw/malawi-j.htm>

日本マラウイ協会の刊行物

(1) 国情紹介誌「Malawi - The Warm Heart of Africa」第 2 版 A4 版 40 ページ 1 部 1,000 円(送料 240 円)

(2) マラウイ旅行ガイド 新訂第 2 版「アフリカの暖かき心、湖とサバンナの大地へ」B5 版 108 ページ 1 部 1,200 円(送料 310 円)

各書をご希望の方は、本ページ最後の入会方法の欄に記載の郵便振替口座宛に、代金および送料をお送りください。その際、振込用紙通信欄に「x x x x x x x 冊希望」と明記のこと。なお、「チェワ語(マラウイ国語)辞典」については、現在在庫切れのため、近く改訂版を発刊することを計画しております。

ビデオライブラリーについて

日本マラウイ協会では当協会のオリジナルを含むマラウイやアフリカ関連などの作品を収録したビデオテープを、広く会員の皆様に返送費のみのご負担で貸し出してあります。ビデオテープは全て VHS で収録時間は 1 本 60 ~ 120 分。会員への貸出しを優先しますが、会員以外の方にも可能な限り貸出しいたします。申込み、問い合わせは葉書で下記の当協会までお願いします。

ご意見、ご質問をどうぞ

日本マラウイ協会に対するご意見、ご要望、ご質問などありましたら、下記当協会宛へご遠慮なくお寄せください。また、電子メールによるマラウイ関連情報の配信も行っておりますので、電子メールアドレスをお持ちでご希望の方がおられましたら、あわせてご連絡ください。

日本マラウイ協会 月次定例会合

日本マラウイ協会では、毎月第 3 水曜日に、東京都内(通常は JOCV 広尾訓練研修センター 1F OB 連絡室)で、月次定例会合を開催し、マラウイ関連の支援活動などについての討議や、マラウイ関係者間の情報交換などを行っております。参加は会員でなくても構いません。初めての方も大歓迎です。詳しくは、下記の当協会までお問い合わせください。

日本マラウイ協会 入会方法

ご連絡いただければ入会申込書をお送りしますので、各項記入の上ご返送ください。また、入会金と年会費の合計(個人正会員の場合 1,000 円 + 3,000 円 = 4,000 円)を下記の銀行口座または郵便振替口座へお送りください。(郵便振替口座が安くて便利です)

〒106-0047 東京都港区南麻布 5-10-24 第 2 佐野ビル 702 日本マラウイ協会
TEL: 03-3447-2181 FAX: 03-3447-2933 E-mail: hi-ueda@mxn.meshnet.or.jp
三和銀行 東恵比寿支店 普通口座 255739
口座名義人 日本マラウイ協会 名誉会長 卜部敏男
郵便振替 00190-7-13125 加入者名 日本マラウイ協会
また、協会規約その他についても上記宛お問い合わせください。